ビーチクリーンアップ モニタリング調査 2024

日　　時：令和 6 年（2024 年）11 月 3 日（日）9:00～14:20
場　　所：丸亀市本島（調査場所①：新在家の海岸、調査場所②：泊海岸）
参加者数：21 名

11 月 3 日（日曜日）本島でビーチクリーンアップモニタリング調査を開催し、高校生や大学生、企業、家族連れなど 21 名の方に参加をいただきました。

島内 2 か所の海岸で、世界共通の International Coastal Cleanup(ICC)手法と水辺の散乱ゴミの指標評価手法を用いて調査と海岸漂着ごみの回収を行いました。

海ごみリーダー養成講座の修了生がキャプテンやキャプテンのサポートを務め、講座の中で学んだ調査時の留意点などについて説明した後、調査を行いながらごみの回収をしました。

1 か所目の調査場所（新在家の海岸）は、東向きに面しており東からの風で流されてきたごみが漂着していました。個数として多かった品目のトップ 3 は、表 1 に示すとおりになります。破片が多い傾向にあるものの、調査品目では飲料用プラボトル・ペットボトル（1 番目に多い 94 個）、カキ食品の包装・袋（4 番目に多い 57 個）、カキ養殖用まめ管（5 番目に多い 56 個）などが多くありました。

2 か所目の泊海岸で多く回収されたごみの品目のトップ 3 は、表 1 に示すとおりになります。1 か所目の海岸と比べると、カキ養殖用まめ管、発泡スチロール破片、硬質プラスチック破片など小さなごみが取り残されているように感じられました。

ここは海水浴場にもなっている海岸のため、定期的に海岸清掃が行われており、大きなごみは回収され、細かなごみが残っていると考えられます。

調査の途中には、ごみ問題について正しく知ってもらうための「海ごみミニ講座」が実施され、海ごみによる生物への影響やマイクロプラスチックの問題、瀬戸内海の海ごみ事情などについて話がありました。

参加者からは、「色々な種類のごみがあった。食品包装が多い、減らしたい」「ペットボトルが多かった。その他、食品や生活関係のごみが多い」「一見きれいに見えても、細々としたまめ管のようなものは多かった」などの意見がありました。

講座で感じたことを通して、今後、身近な場所、出来ることから海ごみを減らす取り組みを始めるきっかけになればと思います。

表 1　各海岸における ICC 調査結果

調査場所	ICC 調査結果（個数が多かった 3 品目）ｔ＝20 分間	回収量
調査① 新在家の海岸	①　飲料用プラボトル（ペットボトル）　94 個 ②　発泡スチロール破片　85 個 ③　プラスチックシートや袋の破片　83 個	7 袋（45L ごみ袋）
調査② 泊海岸	①　カキ養殖用まめ管（長さ 1.5ｃｍ）92 個 ②　発泡スチロール破片　57 個 ③　硬質プラスチック破片　46 個	3 袋（45L ごみ袋）

【International Coastal Cleanup(ICC)】

世界共通の方法で、回収したごみを品目ごとに分類してその個数をカウントします。どのような品目が多いのかを把握し、発生抑制対策にも役立てられています。

【水辺の散乱ゴミの指標評価手法】

海岸を見てごみの量を大まかに調べる方法です。クリーンアップを実施する前や海岸や地域にお

けるごみの量を把握したりするときに使われている方法です。

【活動写真】

調査場所①：新在家の海岸

海岸クリーンアップの様子

ICC 調査の様子

海ごみミニ講座

集合写真

調査場所②：泊海岸

海ごみリーダー養成講座受講生による説明

ICC 調査の様子

海岸の様子

調べた結果を全体で共有